

内視鏡下経鼻経蝶形骨洞の手術導入方法に関する検討

小松 文成 継 仁 小松 美香
大城 真也 福島 武雄 井上 亨

福岡大学医学部脳神経外科

要旨：内視鏡下経鼻経蝶形骨洞の手術は、近年下垂体疾患における手術方法として確立され、普及しつつある。そのため安全で効率的な内視鏡手術の導入が望まれるが、従来の顕微鏡手術と異なる技術が要求される。しかし本手術の習得に、どのような方法が最適であるか一定の見解はない。我々はハンズオンコースでトレーニングを重ね、内視鏡補助下顕微鏡手術より内視鏡使用を開始し、徐々に内視鏡操作を増やすことで、従来の顕微鏡手術から内視鏡単独手術へ移行した。我々の内視鏡下経鼻経蝶形骨洞の手術導入経験を紹介し、考察を加え報告する。

キーワード：内視鏡下経鼻経蝶形骨洞の手術，下垂体腫瘍，外科トレーニング